

事業所における自己評価結果

公表: 令和7年3月10日

事業所名: 大府市発達支援センターおひさま

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点及び課題や改善すべき点など
①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	14	0	<ul style="list-style-type: none"> ・床にテープ類を貼ると、コーティングがはがれやすくなってきている。定期的な床面の補修が必要と感じる時がある。 ・空間を広く使えるように意識している。
②	職員の配置数は適切である	13	1	<ul style="list-style-type: none"> ・体制を毎日確認して行っている。 ・朝の受け入れ時に登園が重なると職員数が少なく感じるときがある。 ・子どもの支援のタイミングを考慮してスタッフルームに助けを呼ぶこともある。 ・フリーが2人になったことで、ゆとりができた気がする。 ・常に子供に目が届くように職員が配置されていると感じる。
③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	14	0	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の内容や子どもの状況によってはもう少し整理が必要などときもあるかもしれない。 ・建物の老朽化により支援に支障をきたすことがある。扉の鍵が上手く閉まらずタイムリーな支援ができない、視覚支援をしたいがテープを貼ると床が剥がれるなど。 ・シンプルな作りで、必要時パーテーションを使用して調整をしている。
④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	14	0	<ul style="list-style-type: none"> ・備品で一部古いものがあるので適宜更新が必要。 ・相談室や面談室が少なく、面談などで使っていると活動が制限されることがある。 ・活動によっては場所を変えて実施している(ボールプール、プレイルーム、園庭など)。 ・活動に合わせて流動的に環境設定している。 ・活動に応じてボールプールやプレイルームなども使用して環境調整をしている。
⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	13	1	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれに思うことがあってもそれを言い合う時間が取れなかったり、会議などの設定がなかったりする。担当の職員任せになりがちである。 ・療育後の時間の振り返りを通して、支援内容や関わり方、環境の工夫などの話し合い(PCDA サイクル)を実施している。
⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	14	0	<ul style="list-style-type: none"> ・全体会議にあげて、職員全員で把握し、意見に回答している。 ・保護者会のアンケート、事業所のアンケートを行っている。 ・保護者の意向を全体で把握し、職員会議で意見を出し合っている。 ・支援者側の視点では気づかない気づきをいただき、改善に繋げている。

⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	14	0	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の意向を全体で把握し、職員会議で意見を出し合っている。 ・全体会議で話し合っている。
⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	13	1	<ul style="list-style-type: none"> ・数年間に1回行っている。 ・来年度行う予定。
⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	14	0	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の知りたい内容や学びたいことを研修にしている。 ・自分達が学びたいものを出し、療育に繋げている。 ・行いたい研修を出し合って内容を決定している。 ・おひさまの夏休み、冬休みを利用して研修期間に充てたり研修報告を通して職員間で学んだことを共有したりしている。 ・職員の意見を取り入れて研修の計画を立てている。
⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	14	0	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と共にアセスメントシートを確認し、児童に必要な力、伸ばしたい力を基に計画をたてている。 ・多職種で検討をしている。 ・ニーズを把握した上で、職員間でも個別支援計画を共有して、より子どもに合わせた内容になるよう心掛けている。
⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	14	0	<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントシートをもとに担任と面談を設けて目標決定まで行っている。
⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	13	1	<ul style="list-style-type: none"> ・家族・地域・移行支援の項目について今後も検討・精査していく必要がある。

⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	14	0	<ul style="list-style-type: none"> ・担任間で目標は共有して、日々の中で支援を行っている。 ・毎日振り返り、適切に支援が行われているか確認をしている。 ・トライアンドエラーを繰り返しながら支援を行なっている。 ・クラス間で日々の姿の振り返りを通して計画の共有を行っている。
⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	14	0	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス担任で話し合っている。 ・担任間のチームとカリキュラムを立案している。
⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	14	0	<ul style="list-style-type: none"> ・2週間で子どもの姿に合わせて内容変更をしている。 ・子どもの興味に合わせてプログラムを組み立てている。 ・そのクラス、その時期の子ども達の姿を見てカリキュラムを決定している。
⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	13	1	<ul style="list-style-type: none"> ・個別活動の時間が難しい。クラスの状況によってはできるときもあるが必ずできるわけではない。 ・興味のある事と課題を組み合わせながら支援計画を作成している

				る。
⑰	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	13	1	<ul style="list-style-type: none"> ・その日の体制によっていきなり子どもの対応に入る必要がある。また時間の調整も難しい。 ・最低限は行っているつもりだが、環境整備の時間が短いため、打ち合わせが十分にできないときもある。 ・大切にしたい支援や、つくポイントを確認してから支援を開始している。 ・体制で入るパートの先生にクラスのカリキュラムを渡して共有したり、その日入る先生にポイントのメモを渡し共有している。 ・季節の活動や体制などで時間に制限があるときは予め打ち合わせしている。
⑱	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	14	0	<ul style="list-style-type: none"> ・個別に関わった場面も多いので、振り返りで共有し翌日の療育に活かせるようにしている。 ・他職種とも見立てを共有している。
⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	14	0	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りで話し合ったことを日々の姿などに記録し、思い出せるようにしている。 ・記録を取ることを意識することで、療育中も子どもの姿をよく見ることに繋がっている。 ・細かいことも記入している。 ・検証、改善をフリーの先生などにもタイムリーに伝えるためのシステムがあるといい。記録した物を別途改めてメモなどに書くしかできなくて、二度手間だし伝えること自体を忘れる。
⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	14	0	<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援計画の内容の達成度合いによっては、見直しを適宜行っている。
㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	14	0	<ul style="list-style-type: none"> ・色々な視点から見立てをするようにしている。
㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	14	0	<ul style="list-style-type: none"> ・大府市役所こども若者女性課、幼児教育保育課、保健センター、保育園、小学校などと連携を取っている。
㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害者のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている			
㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害者のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている			
㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	14	0	<ul style="list-style-type: none"> ・交流や引き継ぎを対面で丁寧に行ったり、電話でやり取りをしたりしている。 ・書類を見ながらの丁寧な引き継ぎを行っている。

②⑥	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	14	0	<ul style="list-style-type: none"> ・引継ぎ資料を作成し、情報共有を行っている。 ・アフターフォローとして卒園後に情報共有を行っている。
②⑦	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	14	0	<ul style="list-style-type: none"> ・現任研修が今年はあり良い学びになった。 ・交流研修で刺激をもらい療育に活かしている。 ・研修を通じて他施設と情報交換を行なっている。 ・今年度も他市の児童発達支援との交換研修を行っている。

②⑧	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと交流する機会がある	13	1	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての子ども対象ではないが、機会を設定している。 ・時期によって園開放や交流など機会を設けているが、地域の方たちと定期的に交流することが子どもにとってどんな影響があるか考慮する必要がある。 ・移行する子どもは保育園交流として行っている。年長児は希望者に年長児交流をする機会を設けている。園開放などの情報を伝えることもある。
②⑨	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	14	0	<ul style="list-style-type: none"> ・主にセンター長が会の長として出席している。 ・テーマや現場の状況が、許すのであればいろいろな経験の職員が行ってみるのも良いと思う。
③⑩	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	14	0	<ul style="list-style-type: none"> ・共通理解ができるよう情報共有に努めている。 ・その場面の状況を確認しつつ、自宅での状況を確認・比較しながら話をするよう心掛けている。 ・連絡帳や登降園のとき、親子通園日の機会にやり取りを保護者としている。
③⑪	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(保護者向け講演会等)の支援を行っている	10	3	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者講演会などで行えると良いなと思っている。 ・ペアトレは行っていないが、家族支援は行なっている。 ・講演会で学ぶ機会を作っている。 ・今後取り入れるかどうか検討する必要がある。 ・親子通園日を通した子どもを中心としたやり取りや姿の確認、相談や助言などは行っている。親子クラスでは毎日の姿を通して常にやり取りを行っている。
③⑫	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	13	1	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な説明で終わっているのではないと思う。 ・契約の話のときに左記の内容を伝えている。
③⑬	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	14	0	<ul style="list-style-type: none"> ・作成時にガイドラインと照らし合わせて行っていないが、ガイドラインに沿った内容で作成はしている。
③⑭	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	13	1	<ul style="list-style-type: none"> ・定期の懇談はあるが、個別支援計画についてであり、日々の相談は都度行なっている。 ・助言に悩む場合は、他の先生へ相談している。

③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	14	0	・毎年度、保護者会の役員さん方はじめ、保護者会の連携には感服しています。
③⑥	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	14	0	・相談や申し入れがあれば、センター長・副センター長に内容を共有して対応するようにしている。
③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	14	0	・おひさまだよりなどを月1回発行している。 ・インスタグラム等の情報発信を行っている。
③⑧	個人情報の取り扱いに十分注意している	14	0	・できるだけ人がいる前では個人の情報が話題にならないように心掛けている。
③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	14	0	・気持ちに配慮して分かりやすく伝達できるよう工夫している。
④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	13	1	・地域の行事に参加して、当施設を会場として地域の方には知っていただく機会はあるが、コロナ禍明けより外部の方が参加する施設の行事がほぼなくなった。 ・毎年、福祉健康フェアを通しておひさまの情報を発信し、地域の方にもおひさまに来ていただくようにしている。
④⑪	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	14	0	・動画をいかした実地訓練や研修を実施している。

④⑫	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練を行っている	14	0	・月に1回行っている。
④⑬	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	14	0	・事前に保護者と面談を行い、対応方法などについての確認を行っている。
④⑭	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	14	0	・配膳も手順書を掲示して行い、間違えて提供することがないようにしている。
④⑮	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	14	0	・連絡会でその日あった事故・ヒヤリを報告している。
④⑯	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	14	0	年に1度、権利擁護の研修を行っている。
④⑰	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	14	0	・個別支援会議で身体拘束についても話し合っている。 ・身体拘束をする理由を対象児ごとに検討する事で、拘束をする必要があるのか全体で検討することにも繋がっている。

○この「事業所における自己評価結果」は、児童発達支援センター又は児童発達支援事業所の職員の方に、事業所の自己評価していただくものです。「はい」か「いいえ」のどちらかに「○」を記入するとともに、「工夫している点」「課題や改善すべき点」等について記入して下さい。